azabu sukoyaka tsusin vol.37

麻生すこやか通信 VOL.37

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌　2020年1月

2020 札幌麻生脳神経外科病院

開院35周年を迎えて

理事長 斎藤 久寿

新年おめでとうございます。昨年はラグビーワールドカップの日本代表の活躍に感動しました。選手だけでなく選手を支えるすべてのスタッフ達、各々が同じ目標を持ち、お互いを信頼し尊重しあう「ワンチーム」です。令和2年の今年、札幌麻生脳神経外科病院は新しく斎藤久泰先生の参加もあり、新たな活気が生まれました。当院の職員一同も「ワンチーム」となって、今までの体制を更に強化していければと思っております。

救急部は24時間365日救急患者を断らない麻生を定着させ、救急患者さまへの対応もより迅速にできるよう体制を整えています。手術部は出血の迅速な処置はもとより脳梗塞の包括的治療（血栓の回収・血管の拡張）の推進と成果の公表を進め、脊髄疾患でのより高度な機能外科の提供をします。放射線科は的確な診断を目指してさらなる研鑽・実践を積み、血管内手術に必須なデジタルサブストラクション血管造影（DSA）も新鋭機に変わり、頭部の血管をより鮮明に観察することができます。リハビリテーション科は昨年の10月に第2リハビリ室を増設しました。スペースも広くなり、専門医の指導のもと嚥下障害の改善、及び回復期リハにもいっそう力をいれ、365日毎日途切れることなくリハビリテーションを提供し、患者さまの希望する生活が実現できるよう支えていきます。高気圧酸素室はわかりやすい親切・丁寧な説明を心がけ、リハビリとの相乗効果が期待されます。看護部は有能な人材の育成・登用と効果的な管理に努めます。入退院支援センターは医師・看護師・ソーシャルワーカー等と地域の速やかな連携を更にすすめます。訪問看護ステーションは退院された在宅患者さまが安心して穏やかに過ごす事ができるよう、切れ目のないきめ細かい関わりを大切にします。外来部門も待たせない医療・過誤のない医療、患者さま満足度を高めていきます。子年のねずみに負けず劣らずの上手な小回りが利く動きに徹し、何事も諦めないネバーギブアップの精神で新しい質の医療の麻生を今年も継続して参ります。皆様の叱咤激励をお願いし、今年も患者さまにとっても札幌麻生脳神経外科病院にとっても良い年でありますように願っております。

介護予防教室
『すこやか倶楽部』で
当院の看護師が講演しました

昨年11月28日、東区の医療と介護の連携事業である介護予防教室「すこやか倶楽部」が大友敬愛園で行われ、21名の住民の方が参加しました。はじめに地域包括支援センターの保健師や介護予防センターの職員と共に身長・体重・血圧測定などの健康チェックを行い、次に「こころと身体の健康づくり～住み慣れた東区で」と題し、当院の高橋副看護部長が高血圧と脳卒中について講義をしました。脳卒中の危険因子には、高血圧・糖尿病・脂質異常症・不整脈などの持病や生活習慣があり、その中でも高血圧のコントロールが最も重要である事、高血圧の治療は薬の内服の他に生活習慣の改善が必要である事、高血圧と動脈硬化との関係や、たばこや飲酒の健康への影響について説明がありました。脳卒中は介護が必要になった原因の1位であり、参加者の皆さんは真剣な表情でお話を聞いていました。講義の後、グループに分かれて、日頃疑問に思っていることや工夫していることなどを話し合いました。皆さんご自分の健康に関心が高く、血圧や血液検査の結果を気にしていたり、食事では減塩や栄養バランス、食べる量に気を配っていたり、生活の中に運動を取り入れている方が多くいました。夫婦そろって栄養バランスを考えた食事を続けて夫の肥満が改善した話や介護の話など、話題は尽きませんでした。その後は、個別の健康相談や、体や頭を同時に使う運動を行いました。出席された皆さんはとてもお元気で、日頃より色々な方と話したり、身体を動かしたり、積極的に外出している事が元気の秘訣ではないかと感じました。私自身も病院以外で地域住民の方と触れ合う機会をいただき、普段どのような事に気をつけて生活されているのかを知り、大変学びになり、日々の生活指導やテラス教室に活かしたいと思いました。

外来主任看護師　中西 友子

ご紹介

訪問看護ステーション あざぶ

平成29年6月から2年間の訪問看護室の活動を経て、令和元年7月1日に『訪問看護ステーションあざぶ』として開設し、現在、看護師3名と理学療法士・作業療法士・言語聴覚士各1名の計6名のスタッフで運営しております。開設から6ヵ月が経過し、当院の他、地域の病院やクリニック及び、居宅支援事業所や地域包括支援センター等の皆様との連携を図りながら、利用者様・ご家族のご意向に添って、在宅での生活が安心して穏やかに過ごす事ができるよう支援しております。私達の理念は「利用者様の自分らしさを大切にし、一番身近な生活支援者として丁寧で温かい訪問看護を提供いたします」と掲げ、どんな小さな困りごとにも耳を傾け、地域の医療機関やケアマネジャーの方等と顔の見える、声の届く連携を図りながら速やかな対応を心がけて活動しています。当ステーションでは、24時間の緊急時訪問看護対応や、様々な医療処置を必要とする方への看護や看取りを含めあらゆる場面での看護やリハビリテーションの提供を行います。住み慣れたご自宅での生活を、是非、私達にもサポートさせていただけますよう、ご相談やご依頼等につきましては、下記までお気軽にお問い合わせ下さい。よろしくお願い致します。

〈訪問看護ステーションあざぶ　所長 夛喜 美樹〉

訪問看護ステーション あざぶ
（札幌麻生脳神経外科病院 1 階）
TEL.011-712-0085

院内研修交流会 LEVANGA HOKKAIDO

北海道のために 選手として、経営者として

プロバスケットチーム レバンガ北海道 折茂 武彦氏

令和元年9月18日に開催された当院の院内研修交流会にて
プロバスケットボールチームレバンガ北海道の折茂武彦選手兼代表に
講演していただきました。

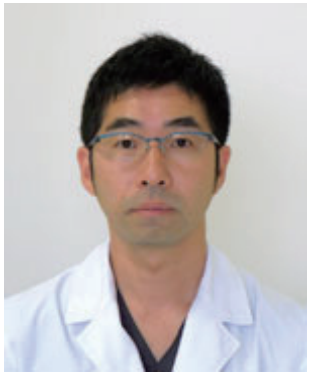
折茂（おりも） 武彦（たけひこ）
プロバスケットボールチーム
レバンガ北海道SG＃9
株式会社レバンガ北海道 代表取締役
1970年5月14日生。埼玉県上尾市出身。1993年日本大学卒業後にトヨタ自動車へ入社。2007年に新たに設立されたレバンガ北海道の前身となるチームに入団。2011年に自らが代表となり、新チームレバンガ北海道を創設。2019年1月5日の試合で国内トップリーグ10,000得点を記録。B.LEAGUE現役最年長選手であり、2019-20シーズン限りでの現役引退を発表。

2007年に前身のチームに移籍してからは、イベントに参加する機会がすごく多くなり、多くの皆さんに知ってもらえたと思う。しかし、2011年にチームが経営破綻してしまい消滅してしまった。その時、私は北海道のためにプロバスケットボールチームを残したいと思った。私は北海道に来てから、北海道の人たちにすごく応援してもらい、必要とされていると感じた。そして、どれだけ支えてもらったか図りしれない。北海道の皆さんに恩返しをしたいと思ったから、自分で新チームを発足させることにした。新チーム立ち上げの際は、スポンサーが集まらず活動資金が全く集まらなかった。活動資金が無いので自分で資金を出すしかなかった。私がレバンガ北海道になって最初に改善したことは、選手がバスケットボールだけに集中してもらえる環境整備と、従業員全員の給与改善を行った。従業員が動かないと、会社は成り立たない。だから、選手や従業員の待遇を良くする必要がある。そうすることでモチベーションが上がり、当然クラブにもプラスになるとの考えがあるからである。結果として初年度から赤字経営であったが、北海道の人は私を助けてくれた。それが本当に有難かった。おかげでチームの経営は3年ほど前から黒字化しており、現在、スポンサーは当初の3社から240社まで増え、北海道内でのレバンガ北海道の知名度は約6割。これは社員やチームを支えてくれるファンの方々のおかげである。我々のクラブはファンあってのものである。試合を観に来て貰えなければクラブとして成り立たない。来てくれるのはファンの方々。そのために、いかにファンの方が試合以外で応援してもらえるかを、常にクラブとしても選手としても考えている。イベントへの参加やファンへの対応などファンサービスを行うことで、応援してくれるファンを増やすことができている。レバンガ北海道には、試合に負けても応援し続けてくれる温かいファンの方が多い。そのようなファンの方々を大切にすることがクラブの成功に繋がり、選手の価値も上げていくことになるということを自分が経験したため、他の選手たちにもひたすら教えている。バスケットボールは選手と観客との距離感が近く、親近感を持ってもらいやすいと思うので、ぜひ応援をしに来てください。

などと話され、現役プロ選手とクラブの代表という二刀流で活躍されている折茂さんの力強さを感じると共に、折茂さん以上に私たちもレバンガ北海道の存在に感謝の気持ちを抱いた講演会でした。

ドクターご紹介

Doctor introduction



医師 斎藤 久泰

令和元年１０月に当院に赴任いたしました斎藤久泰と申します。出身は札幌市ですが、最近では旭川に５年、富山に１年、ドイツに半年間の留学を経て、この度、７年ぶりに札幌に戻って参りました。

専門は脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳動脈瘤、頸動脈狭窄症など）ですが、頭痛、しびれ、めまいなどにも幅広く対応させていただきます。丁寧な診療をすることを心がけております。地域の皆様のお役に立てるように努力いたしますので、どうぞよろしくお願い致します。

PROFILE

2004年防衛医科大学医学科卒業。北海道大学脳神経外科へ入局。2014年北海道大学大学院博士課程で学位を取得。北海道大学病院、渓和会江別病院、帯広厚生病院、市立千歳市民病院、旭川赤十字病院、富山大学附属病院脳神経外科助教。2019年シャリテ・ベルリン医科大学脳神経外科留学後、10月より当院勤務。

【専門医】日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会認定専門医

編集後記

今号では、当院の訪問看護や介護予防への取り組みをご紹介しました。私たちの『患者さま第一』の理念の基に、患者さまが療養中または療養後においても、より自分らしい生活を行うことができるようお手伝いさせて頂きます。「住み慣れた環境でずっと元気に過ごしていたい。」、そんな皆さまの思いを少しでも形に出来たらと思います。当院はこれからもずっと地域と共に歩み続けます。患者さまの笑顔が私たちの宝物です。

医療法人
札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東１丁目1-40
TEL 011-731-2321（代表） FAX 011-731-0559
ホームページ http://www.azabunougeka.or.jp

交通アクセス

■地下鉄：南北線 北24条駅下車
（2番・3番出口から徒歩約7分）
■中央バス：「北21東1」下車、徒歩約2分
■中央バス：「北24東1」下車、徒歩約2分

携帯用サイト

当院へのバス路線 中央バス

屯田線02・新琴似線09・あいの里・篠路線22
篠路駅前団地線36・ひまわり団地線28
花川南団地線14・花畔団地線16・元町線東70
石狩線・石狩線（トーメン団地行）・札厚線・札浜線（特急）

※お間違いないようご注意ください

●往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
新琴似線09・花川南団地線14・花畔団地線16・石狩線・石狩線（トーメン団地行）
●バス停「北24条東１丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。